妊娠経過中における母体のＣＭＶ感染と胎児感染

日立仙台病院研究検査科第二科長
沼　崎　義　夫

1. 臍帯血ＩｇＭレベルと子宮内感染

子宮内感染によって臍帯血ＩｇＭレベルが上昇するという Alford らの報告があるので，本邦における臍帯血ＩｇＭレベルと子宮内感染との関係を調査中である。現在までに 1,661例の臍帯血が検索されたが，IgＭレベルは表1)の通りであり，50mg／dℓ以上の異常高値を示したものが５例（0.３％）認められた。これらの新生児５例のうち，１例は出生直後死亡，２例は未熟児，そのうち１例は心奇型ＶＳＤ，２例は正常であった。これらの４症例は追跡調査中であるが，サイトメガロウイルス（ＣＭＶ），風疹ウイルス，トキソプラズマ感染は否定された。

2. 妊娠経過中のＣＭＶ感染

妊娠初期，中期，満期の３回血清を採取し抗体上昇によって妊娠経過中のＣＭＶ感染を検出しようと試みているが，現在までに 1,276 例中15例（1.２％）にＣＭＶの抗体の上昇を認めた。15例中４例は妊娠初期ＣＦ抗体が８培以下であり，しかもそのうち2例はIgＭ抗体の上昇を認めたので初感染と思われるが，残りの11例は初期すでにＣＦ抗体陽性であり，再感染または潜伏感染の再活性化が考えられる（表２）。15例の臍帯血からはいづれもＩｇＭ抗体が検出されず，ＣＭＶの子宮内感染は否定的であるが，乳児の臨床については追跡調査中である。（医学のあゆみ，別刷参照）

3. 周産期のＣＭＶ感染と抗体反応

本邦では新生児の60％が分娩時の産道感染をうけると考えられるから，このような周産期のＣＭＶ感染でいかなる疾患をおこすかが重要な課題である。しかし，正常児がＣＭＶを排泄しているので，ウイルス分離以外の診断法が必要である。そのため，新たにＥＡ（初期抗原）抗体およびＩｇＭ抗体の測定法を（医学のあゆみ，別刷参照）を確立して肝疾患乳児と正常乳児を比較検索してつぎのような結果をえた。

１）乳児におけるＥＡ抗体検出はＣＭＶ感染を意味する。２）ＩｇＭ抗体は肝脾腫大および新生児肝炎群から検出されたが，健康乳児からは検出されなかった。（表３）

以上の成績から乳児肝疾患とＣＭＶ感染との因果関係が示唆された。

表１

臍帯血 1,661例のＩｇＭレベル

IgMレベル(mg／dℓ)	例数	%
0 － 9	1,191	71.7
10 － 19	389	23.4
20 － 29	47	2.8
30 － 39	26	1.6
40 － 49	3	0.2
50以上	5	0.3

表２.

妊娠経過中におけるＣＭＶ抗体の有意上昇

検査例数		抗体有意上昇例数 初期	中期	満期
1276	ＣＦ陽性	1,212	8	3
	ＣＦ陰性	64	4	0

表3.

乳児CMV初感染（分離陽性例）における各種抗体検出率

臨床診断	検査例数	CF	IgG LA	IgG EA	IgG MA	IgM LA	IgM MA
肝脾腫大	6	6 (100)	6 (100)	6 (100)	5 (83.3)	0	4 (66.6)
乳児肝炎	13	13 (100)	13 (100)	10 (76.9)	10 (76.9)	0	4 (30.8)
健　康	30	30 (100)	30 (100)	14 (46.7)	1 (3.3)	0	1 (3.3)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.臍帯血 IgM レベルと子宮内感染

子宮内感染によって臍帯血 IgM レベルが上昇するという Alford らの報告があるので,本邦における臍帯血 IgM レベルと子宮内感染との関係を調査中である。現在までに 1,661 例の臍帯血が検索されたが,IgM レベルは表(1)の通りであり,50mg/dl 以上の異常高値を示したものが 5 例(0.3%)認められた。これらの新生児 5 例のうち,1 例は出生直後死亡,2 例は未熟児,そのうち 1 例は心奇型 VSD,2 例は正常であった。これらの 4 症例は追跡調査中であるが,サイトメガロウイルス(CMV)。風疹ウイルス,トキソプラズマ感染は否定された。